

The 1st Pacific Rim Rehabilitation Seminar at Tokyo Bay



第**1**回 環太平洋リハビリテーションセミナー

at Tokyo Bay

リハビリテーション最前線 機能回復の新機軸

理論・実践 そして教育の立場から

[講演会場]

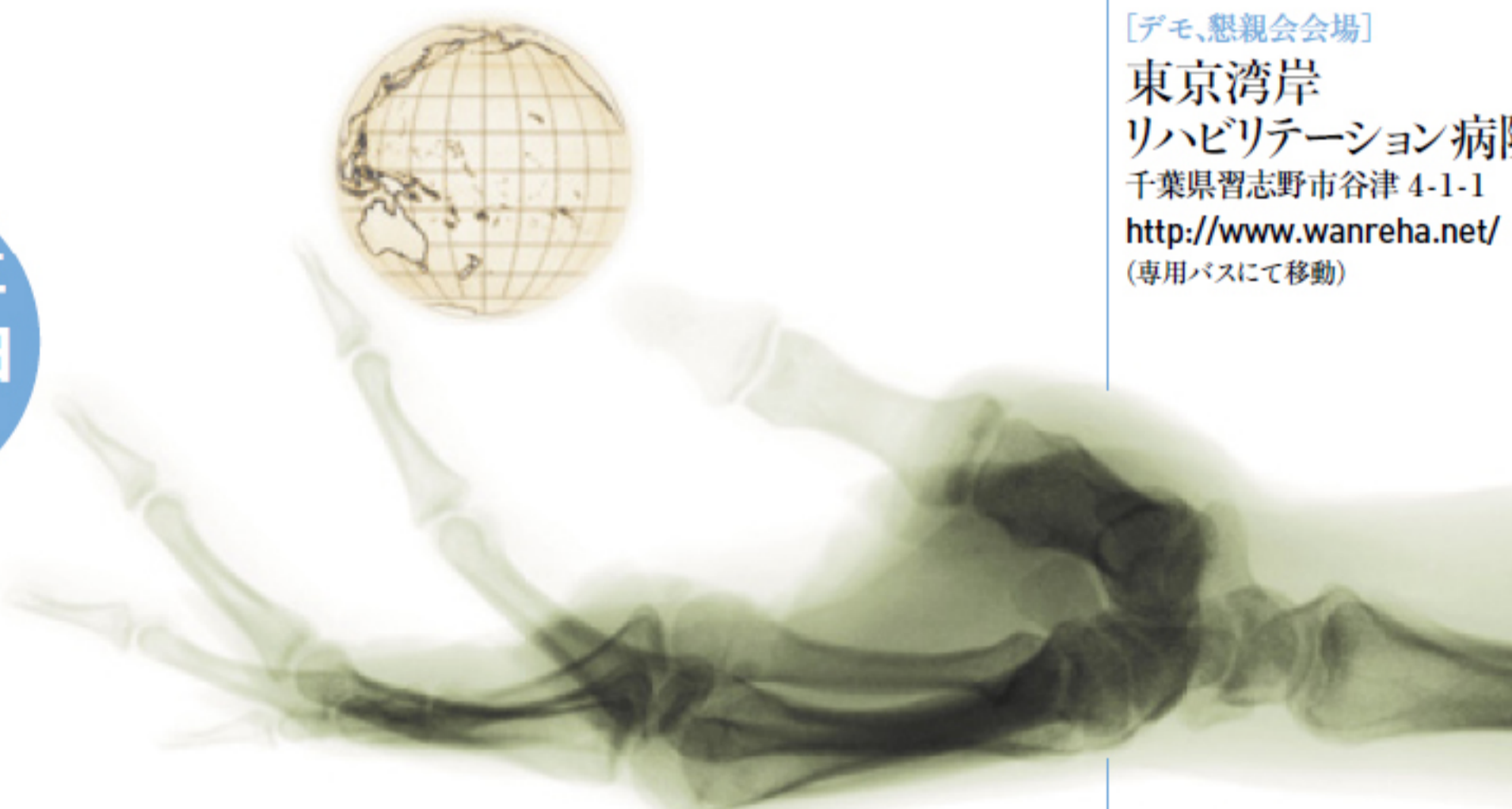
セミナーハウス
クロス・ウェーブ幕張
2F ホール
千葉市美浜区中瀬 1-3
幕張テクノガーデン A 棟
<http://www.orix.co.jp/x-wave/makuhari/index.htm>
テクノガーデン内に託児所あり

[デモ、懇親会会場]

東京湾岸
リハビリテーション病院
千葉県習志野市谷津 4-1-1
<http://www.wanreha.net/>
(専用バスにて移動)

2008年
6月21日
SAT.

9時50分
オープニング



[講演] (通訳あり)

University of Southern California,
Division of Biokinesiology
and Physical Therapy

Associate Dean and Chair
Dr James Gordon

Professor

Dr Carolee J. Winstein

Assistant Professor

Dr Nicolas Schweighofer

慶應義塾大学医学部

リハビリテーション医学教室

講師

藤原俊之先生

慶應義塾大学理工学部生命情報学科

講師

牛場潤一先生

[参加費]

医師 8000円
PT OT/一般 6000円
学生 4000円
懇親会 2000円

[参加申込み、問い合わせ]

<http://www.wanreha.net/pacificrim>

[主催]

慶應義塾大学医学部
リハビリテーション医学教室
University of Southern California,
Division of Biokinesiology and
Physical Therapy
東京湾岸リハビリテーション病院

[共催]

ATR 脳情報研究所
脳を活かす研究会
(独) 情報通信研究機構 共催予定

<http://www.wanreha.net/pacificrim>

第1回 環太平洋リハビリテーションセミナー

at Tokyo Bay



【Carolee J. Winstein】

アメリカ理学療法協会特別会員 理学療法士

1973年 カリフォルニア大学サンフランシスコ校理学療法学科卒業
1988年 カリフォルニア大学にて博士号取得
2005年 南カリフォルニア大学 生体運動学・理学療法学部 教授
2007年 南カリフォルニア大学 生体運動学・理学療法学部 研究部門長

Winstein氏は一般病院における臨床と、アメリカならではの理学療法のコンサルタント業を経験し、その後、研究活動にも深く携わり、主に運動学や運動制御の分野で数多くの論文を発表されている。特に、最近マスコミなどでも話題になっているCI療法（非麻痺側の使用制限と麻痺側の強制使用による機能回復訓練）については、その効果を多施設間で実証する国家プロジェクト、EXCITE randomized trialの主要メンバーとして大きく貢献しており、その実像を知るまたとないチャンスである。本講演では、EXCITEをはじめとした神経機能リハビリテーションの臨床実証研究について、最新の知見をご紹介いただく。



【牛場潤一】

博士（工学）

2001年 慶應義塾大学理工学部物理情報工学科卒業
2003年 デンマーク、オルボー大学感覚運動統合センター客員研究員
2004年 慶應義塾大学理工学研究科基礎理工学専攻後期博士課程修了
2007年 慶應義塾大学理工学部講師

牛場氏は、脳波を利用して、頭の中で考えただけで3Dバーチャルワールド（セカンドライフ）内を散歩できるブレイン・コンピュータ・インターフェース技術の開発に成功した。この技術は、重度の運動障害をもつ人がセカンドライフ内でのコミュニケーションやビジネスを行うことの可能性を示唆し話題を呼んでいる。同氏はこれまでも慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室と連携で数多くのプロジェクトを推進してきた実績があり、工学分野とリハビリテーション分野をつなぐパイオニアと言われている。本講演は、このような新技術を利用したリハビリテーションの新たな可能性について知識を深める機会となるだろう。



【藤原俊之】

リハビリテーション専門医 医学博士

1993年 福井医科大学卒業
1993年 慶應義塾大学研修医
2002年 慶應義塾大学医学部にて博士号取得
2002年 英国ロンドン大学付属国立神経研究所リサーチフェロー
2003年 国立東埼玉病院リハビリテーション科医長
2005年 慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室専任講師

藤原氏は日本のリハビリテーション医学の将来を担う新進気鋭のリハビリテーション専門医のひとりである。臨床のみならず研究活動も精力的にこなし、経頭蓋磁気刺激を巧みに利用した研究をはじめとして、基礎から臨床まで幅広い学会発表や論文発表数は100を超える。上肢機能障害に対する新しい治療法HANDSは、数多くのメディアに取り上げられており、平易かつ親しみやすく語る藤原氏は、職場のスタッフおよび患者様から絶大な信頼を得ている。本講演では、CI療法に比べてより重篤な麻痺にも適用可能なHANDS療法について、その効果を示すとともにその回復機序の解明に切り込む。



【James Gordon】

アメリカ理学療法協会特別会員 理学療法士

1974年 ニューヨーク州立大学 理学療法学科卒業
1987年 コロンビア大学 神経生物学・行動学センターにて博士号取得
2006年 南カリフォルニア大学 生体運動学・理学療法学部 副学部長

Gordon氏は1970年代から理学療法の臨床と教育に携わり、現在、理学療法において全米の中心となっている南カリフォルニア大学の臨床、研究、そして教育を率いている。研究面では、理学療法士・作業療法士の必学である運動学に造詣が深く、特にClaude Ghez博士との一連の論文はこの分野の古典として数多く引用されている。教育面では、基礎医学分野から神経解剖学・神経科学・運動器と多岐にわたる分野で後進の育成にあたっている。本講演においては、全米ナンバー1を誇る同大学の戦略とシステムを紹介すると同時に、日本の理学療法コミュニティとの交流とパートナーシップの構築に向けての意欲と展望を語る。



【Nicolas Schweighofer】

博士（神経科学）

1990年 エコール・サントラル・ドゥ・ナン卒
1995年 南カリフォルニア大学にて博士号取得（計算神経科学）
1996年 ERATO 川人学習脳プロジェクト 研究員
2000年 (株) セレゴジャパン 研究開発部長
2002年 CREST 研究員
2004年 南カリフォルニア大学 生体運動学・理学療法学部 准教授

Schweighofer氏は数学、物理学、工学を修めた後、情報処理の観点から脳の機能の解明を研究する計算論的神経科学の分野に進み、学習過程やそのモデル研究で数多くの研究成果をあげている。日本における研究も長期にわたる親日家である。学習と報酬の理論をNudoらのリスザルの機能回復実験結果に当てはめたり、リハビリテーションの計算モデルや、語学学習システム開発（Cerego）で培った学習課題選択の最適化理論を、訓練課題の選択に応用したシステムの提案など、先進的な研究と開発を進め、リハビリテーション界に新風を吹き込んでいる。本講演は、訓練課題選択理論をはじめとした、学際的で斬新なアイデアに触れる機会と思われる。

【スケジュール】

9:50 - 10:00

オープニング
(慶應義塾大学医学部 里宇 明元教授)

10:00 - 12:20

セッション1 実践の立場から

神経機能リハの臨床実証
— EXCITE trialをはじめとして —
Dr. Carolee J. Winstein

HANDS 療法

— 上肢機能回復への新しいアプローチ —

藤原 俊之先生
(日本リハビリテーション医学会
生涯教育研修会単位付与 [5単位])

13:20 - 15:40

セッション2 理論の立場から

課題の自動的な最適化による
機能回復の最大化

Dr Nicolas Schweighofer

ブレイン・マシン・インターフェースを
活用した新しいリハビリテーションの構築
牛場 潤一先生

15:50 - 17:00

セッション3 教育の立場から

USCの教育・臨床・研究、
そしてパートナーシップへのビジョン
— 我々が全米No1な訳 —
Dr James Gordon

17:00 - 18:40

セッション4 デモンストレーション

最先端リハビリテーション専門病院
へのいざない
東京湾岸リハビリテーション病院
近藤 国嗣院長

デモンストレーション
(於) 東京湾岸リハビリテーション病院
(専用バスで移動)

(HANDS、BCI/BMI、NIRS、三次元動作解析 他)

18:40 - 21:00

懇親会

(於) 東京湾岸リハビリテーション病院

2008年
6月21日
SAT.